

中学  
2～3年

教材名 **「仏の銀蔵」** (出典「中学校道徳読み物資料集」文部科学省)

規範意識

### ◆◆◆教材の概要◆◆◆

情け容赦ない借金の取り立てで、村人から怖れられ高利貸しの銀蔵は、ある日、カラスに証文をとられて取り立てができなくなる。証文がないことを理由に村人が借金を返さないため、二十両と引き替えに証文を取り戻そうとする。しかし、証文が返ってこないばかりでなく二十両も失い、商いができなくなった銀蔵は生活苦に陥る。しばらくすると、不思議なことに、村人達は証文がないにもかかわらず借金を返し始める。「貧しいが盗人にはなりたくねえ。」「お天道様が見てござる。」との村人達の言葉に、銀蔵は「そうか、お天道様か。」と気付くのであった。

### ◆◆◆教材の活用◆◆◆

高利貸しという仕事の是非に流れないように注意して授業を展開したい。また、銀蔵が法やきまり（証文）に従えばそれだけでよしという考えから、良心に従った村人の言動に触れ道徳的に変化した箇所に焦点をあて、内なる規範の存在に気付き、それに従って生きようとする生き方に共感させたい。村人の借金返済は、銀蔵への哀れみより、人の道に外れたくないという規範意識によるものであるということを押さえることが大切である。この実践を通して、自分の利益だけでなく、周りの人々の利益をも視野に入れ、自分の良心に従って判断し、行動しようとする生徒の意欲を喚起したい。

### ◆◆◆中心発問◆◆◆

「お天道様」とはなんだろう。

### ◆◆◆板書計画◆◆◆

銀蔵……「鬼の銀蔵」怖がられている。  
金貸し・厳しい取り立て。  
村人達…生活が苦しい。

**証文なしでは取立ができない。**

不思議な手紙

カラスが証文を持っていく

なぜ、二十両を払ってまでも証文を取り戻そうと思ったのだろう。

証文さえあれば厳しく取り立てできる。  
ごまかそうとした村人達を見返したい。

**二十両も証文も戻らない。**

さすがに何も言えず、ガックリ肩を落とした銀蔵はどんな思いだっただろう。

証拠がないから仕方がない。  
これからどうしたらいいだろう。

村人は、何を見られていると思ったのだろう。

自分達のせいで銀蔵を苦しめていること。  
借りたお金を返さず盗人と同じことをしていること。  
うそをついてごまかしていること。

「そうか、お天道様か」とは、何を見られていると思っただろう。

証文を盾に厳しい取立をしていたこと。  
村人の生活を考えず、自分のことばかり考えていたこと。  
村人を苦しめていた自分の日頃の行い。

**お天道様とは何だろう。**

自分の良心・神様・もつ一人の自分

銀蔵はその後どんな生き方をしようとしたかを含めて感想を……

**仏の銀蔵**




### ◆◆◆道徳的価値「内なる規範（良心）」について◆◆◆

法やきまりは、社会生活に秩序を与え、摩擦を最小限にするために人間の知恵が生み出したものである。社会の秩序と規律を守ることにより、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。中学生になると、社会の仕組みも程度理解できるようになり、法やきまりの意義を理解できるようになってくる。しかし一方で、法やきまりに従えばそれだけでよしと考えたり、自分たちを拘束するものとして反発する生徒もいる。社会における自分の立場、自分の利害得失に固執せずに自分の内なる規範に従って、自ら考え、判断し、社会をよりよくするために行動しようとする気持ちが大切である。

## ◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

## 本時のねらい

証文なしでも借金を返済するようになった村人の良心に触れ、自らの内なる規範に気付いて道徳的に変化する銀蔵の姿を通して、法やきまりの意義を理解し、内なる規範（良心）に従って生きようとする道徳的実践意欲を高める。

## 本時の展開

|    | 学習活動                                          | 発問と予想される生徒の反応                                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点                                                                    |
|----|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ・教材について知る。                                    | 今日は昔のお話で、金貸しの銀蔵が主人公です。                                                                                                                                                                                  | ・教材への方向付けをする。                                                              |
| 展開 | ・教材を黙読する。                                     |                                                                                                                                                                                                         | ・話の筋が理解できるように範読する。                                                         |
|    | ・証文さえあれば、厳しく取り立ててもよいという銀蔵の考えを理解する。            | なぜ20両払ってまでも証文を取り戻そうと思ったのだろう。<br>・証文さえあれば厳しく取り立てられる。<br>・証文がないからと返済しない村人を見返したいから。<br>・貸したお金を絶対に取り返したいから。                                                                                                 | ・証文を盾に厳しく取り立てようという考えを押さえる。<br>補助発問：20両で商売は続けられるのになぜか。                      |
|    | ・証文も20両も失い取り立てできなくなった銀蔵の心情に共感する。              | さすがに何も言えずがっくり肩を落とした銀蔵はどんな思いだっただろう。<br>・もう取立ができない。<br>・これからどうしたらいいだろう。                                                                                                                                   | ・証拠がなくては自分の金だと主張できないと理解しつつ、苦しい状況に陥ったことを押さえる。                               |
|    | ・村人の変化の理由を考える。                                | 「お天道様が見てござる。」とは、村人は何を<br>見られていると思ったのだろう。<br>・自分達が嘘をついてごまかしていること。<br>・自分達のせいで、銀蔵を苦しい状況にしていること。<br>・お金を返さないで、泥棒と同じことをしていること。<br>・自分達が生活に困っていたとき、銀蔵のお金で生活をしたのに、銀蔵の生活を追い詰めたままにいること。<br>・銀蔵の苦難を面白がり、喜んでいたこと。 | ・自分達の間違いを振り返り、内なる規範（良心）に従って行動しようとした過程を理解させる。                               |
| 展開 | ・銀蔵が証文のあるなしに関わらず、人としての生き方についてどのように振り返ったかを考える。 | 「そうか、お天道様か。」と言った銀蔵は、お天道様に何を<br>見られていると思ったのだろう。<br>・証文を盾に、厳しい取立をしたこと。<br>・村人の生活を考えずに、自分のことばかり考えていたこと。<br>・証文さえあれば何をしても良いという自分のひとりよがりな考えであったこと。                                                           | 村人も銀蔵も「お天道様」の存在に気付き、生き方を変えようとしたことを押さえて発問する。                                |
|    | ・内なる規範（良心）について考える。                            | 「お天道様」とは何だろう。<br>・神様<br>・良心<br>・もう一人の自分                                                                                                                                                                 | ・抽象的な答えには補助発問などで、できるだけ具体的に考えを深めさせる。<br>(例) 神様とは何か。<br>ここでいう良心とは具体的にどんなことか？ |
| 終末 | ・考えをまとめ、感想を書く。                                | 今日の授業で考えたことや感想を書きましょう。                                                                                                                                                                                  | ・銀蔵がその後、どんな生き方をしようと思ったかについても考えさせる。                                         |

## 評価の視点（例）

- 他者の意見や話し合い活動を通して、自己の体験を振り返り、内なる規範（良心）に従って生きるということについて考えを深め、その考えや思いを発言したり記述したりしている。